No. 2022-12
令和５年3月17日

# 漁況情報・浜の話題

神奈川県水産技術センター
企画指導部　046-882-2489
相模湾試験場　0465-23-8531

○　２月上旬以降、長井から鎌倉の各浜で、養殖ワカメの収穫が始まりました。昨年 12 月から年明けにかけて、相模湾側だけでなく東京湾側でも食害被害があり、相模湾側の養殖漁家に食害対策について確認した所、❶養殖筏設置場所を磯根から離し、砂地の平間で川の水等がさす比較的水温が低い所にする、❷親縄設置水深を 30 ㎝より浅目（時化前は沈める）にしてたるませない、水温 17℃以上で食害が多発するので❸種挿し時期を 12 月下旬以降に遅らせる、この３点である程度防げ、長井、佐島、鎌倉地区では食害対策防魚ネットの設置が更なる対策としてあげられました。

鎌倉地区の食害対策防魚ネット設置の様子

○　２月 10,14 日、長井町漁協と横須賀市大楠漁協は、（一財）西部水産振興事業団の支援を受け、アワビ稚貝を種苗放流しました。10 日は長井で、２千個（漁協・事業団各千個）、14 日は大楠で６千５百個（漁協５千個、事業団千５百個）を適地に放流しました。10 日は長井で栽培推進部研究員が、磯焼け状況調査と合わせてスキューバ潜水で、ワカメや天草等の小型海藻周辺に丁寧に放流しました。

スキューバ潜水による種苗放流の様子

○　２月 14 日、横浜市漁協柴支所において、水産技術センターの令和４年度農林水産技術会議研究成果評価部会が開催されました。この会議は、当センターで取組まれた研究課題の成果について、現場の漁業者や学識経験者に評価していただき、今後の研究に役立てていくために開催されます。今年度は、「東京湾の重要水産資源の資源構造の解明」について同技術センターの主任研究員から報告がありました。また、３月７日には同様の課題を同漁協本牧支所で、発表しました。両支所ともに参加者からはシャコの現状やタチウオ資源の今後の動向などについて、熱心な質疑がありました。

令和４年度　農林水産技術会議研究成果評価部会の様子（柴支所　左側、本牧支所右側）

○　２月１６日、県漁業士会は小田原市から委託された漁業後継者育成事業の一環として、県立海洋科学高校の学生を対象に体験漁業を実施しました。当日は１年生２名が小田原市漁協所属の刺網漁船（藤八丸）に乗船し、漁の体験をしました。参加した学生にとっては初めて直で見る刺網漁で大変勉強になったようです。将来漁業の担い手となるきっかけの一つになればと話していました。

網をたぐる様子

刺網にかかったヒラメ

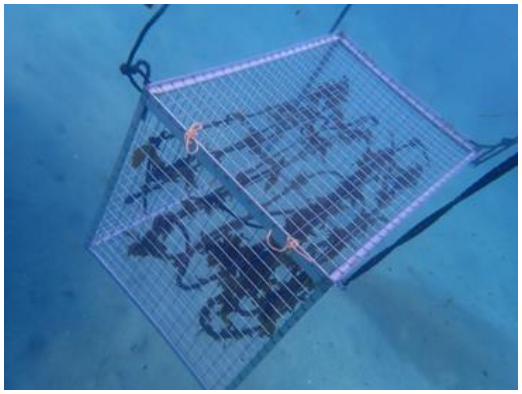
○　２月２１日、三和漁協城ヶ島支所では、水産技術センター栽培推進部の協力の下、城ヶ島周辺の３海域で潜水による藻場モニタリング調査を実施しました。海藻類の繁茂状況は海域によって大きく異なっており、島の南側では長さ１ｍのカジメが密に繁茂していましたが、北側の城ヶ島大橋周辺ではカジメが局所的にみられる程度であり、西側ではカジメは見られませんでした。今年は秋～冬の水温が高くアイゴの食害の期間が長くなることが心配されましたが、幸い昨年度の調査時と比べて大きな減少は見られませんでした。

城ヶ島周辺の藻場モニタリング調査の様子

○　２月２１日、小坪漁協は、（公財）相模湾水産振興事業団の支援を受け、アワビ稚貝６千個（漁協・事業団各３千個）を種苗放流しました。当日は、平たい篭にアワビを貼り付かせて適地に設置し、稚貝の自然な移動を促しました。

○　２月２２日、小田原藻場再生活動組織は垂下式カジメ母藻礁を江之浦漁港内に設置しました。母藻礁ごと移動させることができ、海況に応じた多様な展開が可能です。新たな母藻礁の設置が藻場の再生につながると期待しています。

垂下式カジメ母藻礁


母藻礁の水中の様子

○　2月24日、岩漁協海士会は藻場再生のため食害対策を施したカジメ養殖を岩沖で開始しました。カキ養殖用の丸カゴを使用し、その中にカジメ種苗を挿した養殖ロープを固定し、カキ養殖筏に垂下しました。今後は定期的に生育状況を観察するそうです。

丸カゴに養殖ロープを固定する様子

垂下された丸カゴ

○　2月26日、江の島片瀬漁協は、江の島地先で養殖したワカメを収穫しました。黒潮による高水温の影響を軽減するため、深い水深で養殖を試みたところ、満足のいく生育が確認されました。また、水産多面的機能発揮対策事業の江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト（EFP）による活動で、参加した高校生達が養殖ロープからワカメを外す作業の体験をしました。

深い水深で養殖したワカメ

養殖ロープからワカメを外す

○　2月27日、神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会に所属する漁業者グループは、水産業のスマート化推進支援事業による助成を受け、高性能のソナーを漁船に設置しました。漁場探索の効率化による省エネ、混獲抑制による資源管理の高度化への寄与を目指します。

○　2月28日、全国漁業士連絡会議が農林水産省の講堂で開催され、本県から漁業士会会長および事務局が参加しました。参加した各県から「漁業就業者確保で漁業士にできることは」、「次年度ディスカッションテーマ」について事例報告や意見交換が行われました。

○　3月1日から2日にかけて、第28回全国青年・女性漁業者交流大会が東京都千代田区のホテルグランドアーク半蔵門にて開催されました。本県代表として岩漁協の皆木青年漁業士が「真鶴町岩沖におけるイワガキ養殖」という題で活動報告を行いました。民間企業と連携した町に人を呼び込む取組などが高く評価され、水産庁長官賞を受賞しました。おめでとうございます。

○　３月６日、三和漁協城ヶ島支所では標識付きのマダカアワビの種苗（平均殻長35㎜）を城ヶ島沖の禁漁区に放流しました。当該海域は磯焼け対策の効果もあってかカジメ等の海藻が豊富なので、種苗が順調に生育することを期待したいと思います。

アワビの標識作業の様子

禁漁区に放流した種苗

○　３月７日、平塚市漁協所属の株式会社川長水産の定置網において、県水産課主催の就業希望者を対象とした漁業体験研修が行われました。参加者は選別や出荷作業を体験し、定置網漁業についての理解を深めていました。

定置網での漁獲を見学

選別作業の体験

○　３月８日、平塚市漁協は、漁港を活用した藻場造成による$CO_2$固定の実証実験として養殖したワカメを収穫しました。株式会社平塚茅ヶ崎魚市場の協力により、収穫したワカメの加工品を試作し、今後の展開を検討します。

○　３月９日、大磯二宮漁協は、組合自営による定置漁業を計画しています。小型定置網により、イシダイなどの単価の高い魚を狙います。11月頃の操業開始を目指し、手続きを進めています。

○　３月９日、神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会は、江の島片瀬漁協で漁期前研修会を開催しました。当日は会員20名が参加し、水産技術センター主任研究員より、「3月の禁漁期調査では新しい群の小さなシラスも見られ、３月中に例年初漁をもたらす黒潮からの暖水波及も期待されるので、海況情報に注意して下さい。」との説明がありました。